

東京鶴丸会 会報 第12号

はるばると

http://www.tsurumaru.net/ 題字: 引地信一郎(11回卒)

平成21年(2009)4月18日

【発行】

東京鶴丸会事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷
2-14小林ビル5階 田中法律事務所
TEL: 03-3351-3271

東京鶴丸会会長: 田中和義(26回卒)

編集責任者: 仮屋 毅(27回卒)

鹿児島弁の渦の中、

皆で思いっきり楽しみましょう

東京鶴丸会会長 田中和義(26回卒)

皆さん、お元気でいらつしやいますか?今年も総会の案内とともにこの「はるばると」をお届けいたします。

今年の総会は、東京鶴丸会として一つの節目となる記念すべき総会になります。ご存じのとおり、鶴丸は一中、一高女をその前身とし、創立から暫くは夜間課程も並設されておりました。東京におけるこれらの各同窓会は「東京一鶴会」として合同同窓会を開催してきましたが、今後はこれをやめ、東京鶴丸会に合流することになったのです。第41回総会からは事実上、一中、一高女、夜間課程の皆さんにも、総会のご案内を差し上げ、お誘いしてきましたが、今回からは東京鶴丸会のメンバーとしてご案内を差し上げることになります。(正式には今年の総会で決議します。)一方で今年はいよいよ60回生の若者達を迎え入れます。3世代以上に亘って会員が集うこととなりますが、同じ根っこを持つ同窓生として共に今後の東京鶴丸会を盛り上げていって頂きたいと思えます。

さて、昨年の総会で理事を任された私達ですが、先ずは就任直後から先ほど述べた「最後の東京一鶴会」運営という重責を担い、その準備に忙殺されてきました。皆さんがこれを読むころには既に終了(3月14日開催)しているはずですが。

それから私が会長就任の挨拶で公約(?)として取り上げました「大学生版GO鶴セミナー」ですが、これについても担当理事が意欲的に取り組み、着々と準備を進めております。厳しい社会情勢の中、就職を控えた学生の皆さんに何かしら役に立ちたいと考えております。

今年の総会は、初会場となる「目黒雅叙園」です。幹事の30回生の皆さんが、一生懸命に準備をしてくれております。鹿児島弁の渦の中、皆で思いっきり楽しみましょう。多くの皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。



第42回東京鶴丸会会計報告

平成19年8月1日～平成20年7月31日

支出		収入	
摘要	金額(円)	摘要	金額(円)
		前年度繰越 ①	3,852,629
本部会計(会報・同窓会総会案内・本部活動に関するもの)			
第42回総会案内印刷費	190,467	年会費	1,021,000
// 通信費	404,000	雑収入	0
// 世話人会関連	123,789	受取利息	2,546
// 振替手数料他	93,155		
「はるばると」印刷費	120,300		
ご祝儀(20年鹿児島総会)	30,000		
// (渋谷おはら祭)	30,000		
広告料(20年鹿児島総会)	20,000		
理事会運営費	40,200		
ホームページ作成料	0		
通信費・振込手数料他	630		
計	1,052,541	計	1,023,546
		本部会計収支差額 ②	△28,995
幹事学年会計(同窓会総会に関するもの)			
第42回総会会場費	3,039,735	第42回総会会場費	3,073,000
// 運営費	101,597	// 祝金・寄付金	179,495
// 幹事会等諸費	4,224	// 広告収入	230,000
// 事務通信費他	82,320	// 雑収入	0
計	3,227,876	計	3,482,495
		幹事会計収支差額 ③	254,619
		次年度繰越 (①+②+③)	4,078,253

お礼の言葉 1年前を振り返って

第42回東京鶴丸会準備会長 奥 努(29回卒)

平成20年6月21日(土)は、曇りでした。そして、打ち上げが終わって、我々が3次会へ向ったとき、天気は土砂降りの雨に変わっていました。それでもみんな「何とかやり遂げた」という達成感と安堵感、喜びの表情で晴れとしていました。今1年前を振り返り、「ああ何とか責任は果たせたかな?準備の1年間は大変だったけど、本当に楽しかった」としみじみと思っています。

我々はテーマを「つるまるUNITED みんなつながっている」としました。これはこの東京鶴丸会の場を「懐かしい友との再会、旧交!」「先輩、後輩との新しい出会い!」の場にしたいという、ありふれている(かもしれない)けれど、わたしたちの素直な思いでした。これまで幹事学年をなさって来られた諸先輩方も思いはきつと同じでしょう。前年7月に28期の皆さまから懇切丁寧な引き継ぎを受けてから1年弱、「幹事学年を楽しめ」という橋元前会長のお言葉を胸に私たちなりに楽しみながら準備を進めました。私が頼りないせいか、立派な同級生たちが本当に活躍してくれました。その持

てる力を合わせた結果が第42回東京鶴丸会であつたと思っています。

企画を考えるときに絶対やろうと私が決めていたのは、一中・一高女の校歌・夜間課程の学生歌を歌うこと。前回第41回の会のお開き直後に幹事学年28回卒のN先輩から一高女卒の方を紹介されました。「来年は私たちの校歌も歌わせてね」とおっしゃって、指切りげんまんをした約束を果たすためでした。もし先輩方の出席が少なく寂しい合唱になってしまうと、それなら我々29回卒と一緒に歌えればいい、と同期の音楽部OBの厳しい指導のもと、宗村元会長の事務所会議室で何回も何回も練習を積み重ねました。

そしていよいよ本番当日。場所は虎ノ門パストラル。会場には前回と同様、鹿児島一中、鹿児島一高女、それから鶴丸高校夜間課程卒業の諸先輩をはじめ、鶴丸1回卒から59回卒までの500人の方々が集まってくださいました。橋元会長、小倉校長のあいさつ、会計報告、田中新会長のあいさつ等の総会に引き続いて懇親会に移りました。

「校歌でふりかえる学び舎」と

題した一中・一高女夜間課程の校歌学生歌を歌うコーナーでは、それぞれのOB、OGの皆さんに29回卒が加わり、スクリーンに映したそれぞれの校舎を背に熱唱。伴奏は、同期でカーネギーホールでも演奏したことがあるプロのピアノリスト藤木明美が務めました。前年の約束が果たせてほっとしました。続いて一中卒大迫さんによる中国語を交えたハーモニカショー。87歳とはとても思えないほどの元気で、2年連続の面白くてとても素晴らしいステージでした。そのあとの新卒59回生の紹介コーナーでは、57回卒寺師君、上林房君による歓迎の氣志団風(?)パフォーマンス、新卒代表草木迫君のあいさつ、そして51回卒の格闘家菊野君の蹴りによる「バット3本折」。バット3本には「不可能」と書いた紙が貼ってあって、蹴りは見事に成功。「不可能なことはない」という熱いメッセージを新卒のみんなに贈ることができました。ただ残念だったのは出席の連絡をくれた新卒者のひとり事故で亡くなつて来られなかったことです。本当に残念でした。

ファイナーレは会場全員による

校歌「はろばろと」の斉唱。歌詞といい、曲といい、一中・一高女から連綿と続く鶴丸の歴史と伝統を感じさせてくれます。歌う度に涙が出るほど本当に素晴らしい校歌だと、つくづく感じました。

28回卒の皆様、いろいろアドバイスいただきありがとうございました。学校長、世話人、鹿児島鶴丸会、東京鶴丸会理事の皆様ま、ご協力本当にありがとうございました。

すでに幹事のバトンは30回卒の皆さんにお渡ししています。今はきつとバトンを持つて全力疾走していることでしょう。でも、アドバイスを一言、「てげてげでよかよ。」



みんなで校歌熱唱

◇新理事紹介◇

第42回東京鶴丸会総会(平成20年6月21日)におきまして、以下の新役員が承認されましたので、ご紹介します。任期は3年です。()内の数字は卒業回。

会長:田中和義(26) 副会長:小屋敷辰次(26)、則武輝幸(27)、有馬三郎(28)
総務(会長、副会長補佐):有蘭恵美子(26)、国生賀代子(26)、中楯典子(26)、小林睦子(27)
広報(ホームページ):鎌ヶ迫正俊(48)、萬健治郎(55) 広報(はろばろと編集):仮屋毅(27)、嶽里永子(52)
会計:坂上信一郎(28) 会計監査:奥努(29)、仮屋
GO鶴セミナー:中満祐二(28)、千田朋介(31)、中俣純子(31)、有川久志(38)
一鶴会及び企画:黒木保正(27)、大人形綱邦(29)、奥、嶽
総会との連絡:福元一志(30)、帖佐弘至(30)(来年度以降は千田、中俣)

新生東京鶴丸会発足に寄せて

則武 輝幸(27回卒)

鶴丸高校創立15周年の今年、鹿兒島一中、鹿兒島一高女、鶴丸高校夜間課程の各東京同窓会と東京鶴丸会は合流し、新生東京鶴丸会として新たな一歩を踏み出します。その節目として、3月14日(土)、スクワール麹町3階錦華の間にて15名のご参加を得て、四同窓会合同の第8回東京一鶴会が開催されました。

まずは、最後の東京一鶴会に寄せられたメッセージを一部抜粋してご紹介いたします。いずれも壮麗闊達、抜粋が憚られるような名文です。

■一中東京同窓会会長 春成幸男

昭和63年、中野サンプラザに於いて東京一鶴会の創立総会が開催されました。その佳日を迎えるまで一中、一高女、夜間部、鶴丸の会長さん始め幹部の方々が数年に亘り、母校愛の熱き議論を重ね、また会の名称は当時の一中同窓会長中村四郎先生の即断で決したことなど懐かしき思い出されます。明治27年創立の一中は質実剛健の校風を貫き、天下の風雲を叱咤、天下を睥睨、歴史を刻してきました。須らく我等一中同窓会は今後ともひたすらその誇りを大切にしてゆきます。鶴丸悠久の発展を願ひ我等同根同窓の未来に燦然と輝く栄光と妙なる幸せの訪れをお祈り致します。

■鶴丸高等学校校長 小倉寛恒

私も鶴丸高校の教職員は、

生徒達に対して、鶴丸高校にその濫觴があるとすれば、紛れもなく一中、一高女であり、そこに築かれている歴史の重みと引き継がれている魂をこれからも連綿と伝承していかなければならないことを、日頃から伝えていくところでございます。また、その為には、それぞれの生徒達が己の為すべき方向と方法をもつて、俯仰天地に恥じない生き方をする気概の充実した人材となるよう指導に努めて参りたいと存じます。

（この他、一高女紫桜会の中島奈賀子さん(42回卒)、夜間課程東京同窓会の平田清隆会長(6回卒)からも、素敵なメッセージを頂きました。）

さて、当日は明け方から台風と見紛うほどの強風に横殴りの雨。準備委員の中には「半年以上も前からこんな一生懸命準備してきたのに、何故」とベソをかいている人もいました。しかし、心配は杞憂に終わりました。なんと予定通りの人数で開会を迎えることができたのです。

最後の東京一鶴会は、総合司会の田中和義・東京鶴丸会会長(26回卒)と佐多理加子さん(27回卒、元KTSアナウンサー)の開会宣言、田中会長の四同窓会合流の報告、一中東京同窓会の春成幸男会長(46回卒)の音吐朗々たるごあいさつで、おごそかに幕を開けました。

その後雰囲気は一転、前回に

続いて出演の真打、五街道喜助改め桃月庵白酒師匠(本名愛甲尚人、38回卒)の落語「親子酒」に大いに笑い、昨年カーネギーホールで喝采を浴びた、藤木明美さん(29回卒)の迫力満点のピアノ独奏「リベルタンゴ」に心震わせた後、神奈川一鶴会会長、曾山皓さん(一中45回卒)の発声で乾杯。食事としぼしの歓談を楽しんだ後は、鶴丸高校悠久館からお借りした貴重な映像資料を見ながらの秘話コーナー。大久保和一郎さん(26回卒)が、軽妙なインタビュで、話の尽きない先輩方をうまく収めてくれました。

宴たけなわとなったところで、第1回にも出演した26回卒の声楽家原田泉さんの独唱、「ゴンドラの歌」、「東京行進曲」、「忘れな草をあなたに」、「オーソレミオ」と舞台に乗った者勝ち(時間オーバー冷や汗)の歌とトークの大サービスで、場内を大いに沸かせ

楽しませてくれました。さらに圧巻は、ちようどその日が89歳のお誕生日だった一高女の古垣千里さん(32回卒)へのサプライズ企画。原田さん始め会場全員からの「ハッピーバースデー」の唱和に、付添で参加のお嫁さんともども喜んで頂きました。

景品抽選会で一息入れた後は、29回卒有志合唱団+音楽部OBと各校卒業生の皆さんが校歌を熱唱。クライマックスを迎えた宴は、30回卒福元一志さんの東

京鶴丸会(7月4日)PRに声援を送った後、一高女の中島奈賀子さんのごあいさつで、名残を惜しみつつお開きとなりました。老壮青相揃い、伝統の底力を改めて思い知らされた、まことに夢のような3時間でした。

最後に、田中会長が東京一鶴会に寄せたメッセージをご紹介します。報告の結びといたします。

■東京鶴丸会会長 田中和義

第1回の東京一鶴会が開催されてから20年の歳月が過ぎました。一中・一高女・夜間課程、鶴丸それぞれの東京同窓会が一堂に集まり、合同同窓会を開催する。何と素晴らしい企画だったことでしょう。東京一鶴会は今回をもって解消しますが、その魂は、そのまま、新・東京鶴丸会に引き継がれます。今後の東京鶴丸会は、鶴丸生だけでなく、一中・一高女・夜間課程の先輩方もまた構成員になつて頂きます。先輩の皆様方には、これからも優しく、時には厳しく、我々後輩を見守り続けて頂きたいと思ひます。



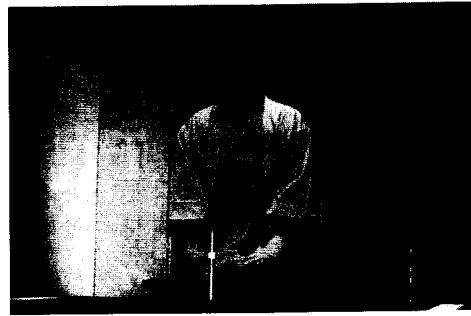
ハッピーバースデー古垣千里さん！
原田泉さんと藤木明美さんに囲まれて



一中 校歌斉唱



宴たけなわの会場風景



抱腹絶倒 真打桃月庵白酒師匠

平成20年度鶴丸高校第5回GO鶴セミナー 「先輩に学ぶ職場訪問」のご報告

東京鶴丸会前副会長 富樫美佐子(25回卒)

鶴丸高校2年生が、先輩の職場を訪問する「GO鶴セミナー」。昨年は5回目を行いました。このセミナーは、東京への修学旅行を機に、東京圏で活躍する先輩の職場を訪問し、2時間程度の職場見学を行うもので、将来の進路を考える貴重な機会となっています。また、先輩が後輩に伝える、ということと「現代版郷中教育」と認識されている方も多くなりました。このセミナーで生徒達は、高校2年生の今の自分を見つめなおし、今後の人生設計を考えるために必要な刺激をたくさん手にして帰ることができたことでしょう。ご協力いただいた皆様に、ここから御礼申し上げます。また3年間、学校とみなさまの橋渡し役をさせていただいたことは、私にとっても大変貴重な経験となりました。不慣れなためご迷惑おかけした方々にはお詫び申し上げます。21年度に向け新理事会の強力な体制のみなさまへ引継ぎをいたしました。

◇訪問日 2008年7月16日
(水) 修学旅行1日目 ◇訪問時間 13時～15時の都合のいい2時間
◇訪問先 46社(昨年と同じ

職場35社+復活3社+新規8社
◇訪問者 鶴丸高校2年生313名
が46班(1班6～7名編成)に分かれ、46社1班ずつ(今年初めて1社1班が実現しました)

◇感想アンケート 46社にメールでアンケートを依頼し、44社より回答がありました。

1 準備段階において

(1) 準備が大変でしたか。

5回目ということで、概ね、特に苦労した点はなかったという回答でした。

【回答例】「今の手順でよいと思う」「何を聞きたいかを先に生徒からもらったので、準備をしやすかった」

2 実際に会ってみて

(1) 時間的には十分でしたか。

十分という回答が大半で、もう少し余裕が欲しいという回答もいくつか見られました。

【回答例】「2時間程度が、準備する側としても、また一度に説明できる内容としても適当かと思われまふ」「決して長すぎることはなく、生徒たちに時間の余裕があれば、もっと話していたいほどでした」「昨年の経験から、

懇談の時間を多く取るようにしました」

(2) 意見交換は活発でしたか。

活発だったとの感想が多かったものの、積極性・活力を求める意見もありました。

【回答例】「訪問した生徒全員が少なくとも1つは質問しており非常に積極的でした」

「生徒たちにやはり多少の遠慮があったようで、歳の離れた先輩後輩という関係で、もつと自由にはなしてもらってもいいと思います」「今年は、旅程における最初のイベントのためか、緊張感、遠慮があるように見受けられた」

(3) 生徒への感想は何かありますか。

礼儀正しい、明るく素直、純粋、真面目、積極的等のことばが並びました。制服に感動し、女生徒の元気のよさが目立ったようです。

【回答例】「大変素直で、礼儀正しくて気持ちが良かったです。特に、会った方々にきちんと挨拶をしてくれたことをうれしく思いました」「自分の将来を真面目に考え、社会に役立つ人間になりたいという強い意志が伝わり、大袈裟ではなく、わが国の将来に希望が持てました」

3 来年に向けて

(1) また引き受けて下さいます

か。

「ぜひ引き受けたい」「ぜひまた来てほしい」など、ほとんどが、「引き受ける」という回答でした。

【回答例】「特に担任の先生のご同行は大歓迎です」

(2) 改善点をお聞かせ下さい。5回目となり、今までの皆さんの要望を学校側に伝えていきますので、ぜひ改善されてきたようです。昼食をとりながら交流したい、との希望の方が多いようです。

【回答例】「こちらで名札を用意することで、よりスムーズに進行することができました」

「引率の先生方との交流の機会を作ってみてはどうでしょうか」「討論することについても訓練してもらいたい」「緊急時の連絡方法など」

4 今回の職場訪問で、一番印象に残ったことは何ですか。

【回答例】「訪問の前日にも電話で生徒さんから、「明日お伺いします」とご挨拶を受けました。ビジネスでもなかなかできないことです。大変好印象を持ちました」「事前に会社のホームページ等を調べている生徒もおり高校生とおもえないような内容の高い質問もあり、進路・就職に関する真剣に取り組んでいる印象がありました」「男子生徒の一人から自分は将来の夢がまだ

持てず、やりたいことが見つからず、勉強にも今ひとつ一生懸命になれないので、どうしたらよいでしょうかとの質問を受けました。きちんと回答できたかどうか分かりませんが、このような質問なり、相談を受けるとやった甲斐があったと少しほっとしました」

5 その他、気づきの点。

【回答例】「メールでのやり取りが比較的スムーズだった(返信が早かった)のでよかったと思います。来年以降においても、この点を宜しくご指導頂ければ幸いです」「彼らが数年後に東京に進学した後の継続的なフォローアップは必要ありませんでしょうか?」「菓子折りを持ってきてくれたが、そのような気遣いは必要ない」



NHKにて(「篤姫」と)

◇「生徒会報・前期号外」より、生徒の感想◇ 〈紙面の都合上、一部抜粋〉

☆最初は正直行きたくないかったが、「本当にここにきてよかった」と思った。辛口の院長先生の「人を助けたいなら医者になるな」と、先輩の「いつも心にフーテンの寅さんとゴルゴ13を」との言葉は心にしみた。超一流の人の考えは一瞬「本当かよ」と思うこともあったがそれも含め実は甘さを捨てて本質を的確にとらえていた。「本物」というものを感じられたことで僕の人生が変わった気がする。本当に感謝してもしつけない。

☆先輩方は自分の好きなことを仕事にすることができて毎日が充実している上に、それが成功してとても楽しそうでした。若いうちから夢を持つことが大切だとおっしゃっていました。ベンチャー企業は、これまで私が持っていた会社のイメージとは大きく違っていて、たくさんのことを吸収できたよい機会となりました。

☆初めての東京に驚き、先輩方の職場を訪門してここでまた驚かされた。日本国内にとどまらず世界に活躍する先輩方の姿に、自分も先輩方に恥じない世界のリーダーにならなくてはと、職場からの俯瞰風景に圧倒されながら思った。

☆仕事上全ての情報をうのみにせず、違う視点から見ても物事のもつとも奥に隠されていることを掘り出していく、ということの大切さを学んだという先輩の話聞き、私はいつも一方から物事を見てしまいがちなことに気付いた。視野を広げたくさんのことが学べるよう、たくさん経験をつむことが大切だと思った

☆私たち7人を迎えるために10人以上の方が出迎えてくださいました。表に出ない人たちも含めるともつと多くの方が協力してくださったのだと思います。そこまで後輩のためにご指導くださる先輩に感激しました。仕事に関する誇り、熱意、情熱がひしひしと伝わってきて、かっこよさを感じました。こんな大人になりたい、まるで人生観が変わるくらい感動しました。

◇平成20年度の職場訪問先 (受付順、敬称略)

(財)日本海事協会技術研究所、NHK、(株)ザ・ライトスタッフオフィス、東京工業大学、長島・大野・常松法律事務所、東京医科歯科大学、(株)電通、宗村法律事務所、日本アイ・ビー・エム・システムズ・エンジニアリング(株)、あさひ法律事務所、(株)吉田鎌ヶ迫、税理士法人山田&パートナーズ、大成建設(株)、森・濱田松本法律事務所、イーピーエス(株)、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構、新日鉱ホールディングス(株)、電源開発(株)、中外製薬(株)、東レ・ダウコーニング(株)、富士通フロンテック(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)致知出版社、(株)東芝、東洋エンジニアリング(株)、東京エレクトロンFE(株)、NTT東日本、JA全農、出光興産(株)、港区立にじのはし幼稚園、五洋建設(株)、参議院、理化学研究所、渋谷区議会、朝日新聞社、國學院大學、テレビ朝日、明治大学、国土交通省、文化庁、三菱自動車、ソネットエンタテインメント(株)、(株)ジャフコ、毎日新聞社、空想科学研究所、住友商事(株)

【お知らせ】

今年の職場訪問は、修学旅行(7月14日～17日)の3日目7月16日(木)9:00～12:00(この範囲で都合のよい時間帯に2時間程度)の予定です。旅程は昨年と少し違うようですが、GO鶴セミナーは今までどおり行われます。第1回目35社、2回目41社、3回目45社、4回目45社、5回目46社にお世話になりましたが、今回も46社の受け入れ先を募集しています。お早めに理事会へ受入表明していただけますよう、どうぞよろしくお願い致します。



大成建設にて



吉田鎌ヶ迫にて



(同左)セミナーの様子



ザ・ライトスタッフオフィスにて



新日鉱ホールディングスにて



(同左)セミナーの様子

南方通信 トリ小屋大作戦

図書出版南方新社代表 向原祥隆(27回卒)

生まれ故郷の鹿児島にUターンし、出版社を起こして十五年目になった。

社名は南方新社。北の大和より文化と人の流れてきた南の方を向いていこうという意思表示のつもり。これまで二百五十点ほど出しただろうか。

最近の関心事は、汗を流し食い物を自分で確保すること。今、週に一度は畑に通いクワを振るうことにしている。もちろん本も作っているが、日照りが続けば畑が乾くなり、雨が降れば野菜が蘇るのが何よりうれしい。

ずっと日吉町の畑に通っていたが、会社近くの荒地を借りて開墾したのは一昨年のこと。

会社は市内下田町。大まかに言えば吉野地区。天文館から車で十五分だから、そんなにはずれてはないのだけど、田園風景が広がっている。

『農的生活のすすめ』『トリ小屋通信』『自然農栽培の手引き』という農業関係の本を連続して出したこともあり、社内でも急に農業をしたいという機運が高まっていた。

合鴨農家の橋口さんに、貸してくれるところはないかと相談したところ、すぐに格好の土地を紹介してくれた。借地料はただ、盆暮れの土手の草払いだけが条件。およそ六畝の広さがある。「せっかくだから、自然農でやろう」。南方新社・自然農クラブも同時に発足することになった。「耕さず、草々虫達を敵とせず」の自然農である。

農園開園の日は、南方新社から男二名、女二名が結集した。三年ほど前まで畑だったのだが、一面にセイタカアワダチソウが生い茂っている。草刈機で刈ろうとも思ったが、残った株からどんどん芽がでるので、この際、全部引き抜くことにした。抜いた後はフカフカして柔らかい。土は肥えていそうである。

汗みどろになりながら二時間余りひたすら抜いていると、一畝ほどの畑がぼつかり出現した。いよいよ植えつけである。その前にまず、1m×10mほどを目安にステーション状に畝を作り上げた。その上に抜いた草を乗せていく。自然農には「持ち出さず、持ち込まず」という教えもある。つまり肥料をやらない代わりに、植物のなきながら積み重ねて土を肥やしていこうという考え方である。草をかぶせて土を覆うのは乾燥を防ぐためでもある。

草を掻き分けつつ、それぞれが持参した種をまいていく。枝豆、スイートコーン、インゲンなどなど。

今では、六畝全て開墾も終わり、立派な畑がいろんな種類の野菜の葉っぱを風に揺らしている。

昨年の一大イベントは、トリ小屋の建設だった。

卵かけご飯が無性に食べたくなる時がある。だが、スーパールの卵では食べる気がしない。身動きできないゲージの中で、成長ホルモンやれ女性ホルモンをたんと与えられた、葉漬けのトリ達の話は散々聞かされている。

あー、うまい卵かけご飯が食いたい。そう思い続けていたあの日の屋下がり、不思議な巡り合いがあった。農家の橋口さんに伺ったら、庭先でなにやらピヨピヨ鳴いているではないか。ヒヨコだ。「何匹か貰えんですか」と私。「四、五匹ならただでいいよ」と橋口さん。

よし！ 会社でニワトリを飼おう！ このご時世、出版社もいつまでもつか分らない。繁殖させて、百羽まで増やそう。卵も売ろう。夢は膨らんだ。

よし！ まずはトリ小屋だ。知り合いに廃材を頼んだら、家一件分の材木を手配してくれた。孟宗竹も別な知り合いがたたくれることになった。鶴丸時代の漁師の友人には、いらなくなつた魚網を頼んだ。これで金網を買わずにすむ。雨漏りしたら可哀相だから、トタンだけは買うことにしたが、あとは一円も使わずにすみそうだ。

会社のほかの社員に気付かれないように、仕事中にこっそり設計図を描いた。何度も何度も修正したから完璧だ。

ニワトリ飼うぞー。卵をとるぞー。うまいぞー。トリも食うぞー！！一日がかりで作り上げたのは、畳四枚分の広さ、高さは二メートルほどの、なかなか立派なトリ小屋だ。助っ人と会社のスタッフも含めて合計五人がかりだった。

会社の庭の片隅に鎮座するトリ小屋に入居したトリ達は、侵入したタヌキに一羽誘拐されるという不幸な出来事もあったが、

無事にに初産。いまでも元気に卵を産み続け、うまい卵かけご飯をスタッフに提供してくれている。

秋口には、会社の近くを流れている稲荷川に仕掛けたカニカゴで、モクスガニを二十匹捕った。うまいのなんのつて！ このカニ、上海ガニの兄弟。上海で食べば千円。近所の川で捕ればただ！北海道のカニよりうまいかも。

都会に住めば、葉漬けの卵やら、農業まみれの野菜を食わざるを得ない。だが、ちよつと郊外に出れば、耕作を放棄された荒れ畑が広がるのが鹿児島。

種を播くだけで野菜は育ち、トリは残飯で卵を産み、川に行けばカニの捕り放題。うまいものを食うのに知恵と体は使わなくても、金のかからない、ほとんどただの世界が広がっている。

そう、鹿児島に帰ってきては、いかが？ 荒れ畑を借りるのも早い者勝ちだよ。



筆者と南方新社・自然農クラブの仲間たち



まるまると肥えたニワトリ

★お知らせ★

『渋谷・鹿児島おはら祭り』

昨年は大勢の学生が参加してくれて総勢70名の連として、あの！！渋谷の！！メインストリートを踊りながら練り歩いてきました。今年は人数+α踊りのうまさ？？参加お待ちしてま～す

2009年5月17日(日)13時より 渋谷・道玄坂・文化村通り
◇「東京鶴丸連」連絡先: 金田ちあき(25回卒)
surf_28c.chiaki-k@docomo.ne.jp 090-8588-9537
☆参加連絡お待ちしています。